

# 法王に被爆地支援要請

## 長崎原爆投下B29機長

1945年8月9日に長崎に原爆を投下した米B29爆撃機「ボックスカー」の故チャールズ・スウィニー機長が、60年代初めにローマ法王ヨハネ23世(在位58〜63年)に個人的に謁見(えっけん)、

### 遺族証言、孤児院寄付も

被爆地の復興支援を要請していたことが遺族の証言で7日分かった。長崎への原爆投下70年を前に、スウィニー氏の故郷の米ボストン近郊クインシーで次女や弟が共同通信の取材に応じた。



長崎に原爆を投下したB29爆撃機「ボックスカー」のチャールズ・スウィニー機長(1945年8月、北マリアナ諸島(ゲッティー)共同)

スウィニー氏は敬虔(けいけん)なカトリック信徒。45年9月に軍の任務で米科学校らと長崎を訪問した。その後、被災孤児のことを気にかけ、長崎のカトリック系孤児院に寄付したと遺族に話していた。原爆投下についてスウィニー氏は「戦争終結を早めた」として必要だったとの主張を貫いた。だが、宗教や倫理の問題に詳しい国際基督教大の森本あんり教授

は、寄付などの行為から「孤児たちにすまなかつた」と思いが心の奥にあるのが分かる」と語った。次女マリリン・ハウさん(67)によると、スウィニー氏は62年ごろバチカンを訪

長崎への原爆投下 1945年8月9日、米B29爆撃機「ボックスカー」がプルトニウム型原爆「ファットマン」を長崎市に投下。同市松山町上空約500mで爆発、山に挟まれた南北に長い谷状の地域を破壊させ、同年末までに推計約7万4千人が死亡した。当初目標は小倉だったが視界不良のため長崎に変更。投下後は燃料不足のため、沖繩の米軍基地に緊急着陸した。東洋一大の聖堂と呼ばれた浦上天主堂は崩壊、大浦天主堂も損壊するなど長崎のキリスト教社会は大打撃を受けた。

**略歴**  
チャールズ・スウィニー氏 19年12月27日、米ボストン郊外のアイルランド系カトリック信徒の家庭に生まれる。高校卒業後、41年4月に陸軍航空隊入隊。試験飛行士などを経て、45年8月6日、機長を務めたB29グレート・アーティストは広島への原爆投下作戦に観測機として参加した。9日、

B29「ボックスカー」機長として作戦を指揮、長崎に原爆を投下した。76年5月、少将で退役。95年の米首都ワシントンのスミソニアン航空宇宙博物館での原爆展の論争では「核兵器の存在を忌み嫌わねばならぬ」としつつも、原爆投下自体は肯定する立場を貫いた。04年7月、ボストンで死去。

長崎に原爆を投下した米爆撃機「ボックスカー」機長が、被爆地の復興を願っていたことについて、キリスト教や倫理の問題に詳しい専門家からは「心の奥に許されたい」との思いを窺み取れる」と分析する。スウィニー氏は、原爆投下自体は正しかったとの立場を貫いた。南山大のマイケル・シーゲル元教授は「原爆投下が正当でなければ、あまりにも巨大な悪になるので責任を受け入れにくかったのかも」と語った。

### 心の奥で「許し」願う 専門家ら分析

ただ「被害を悲しむ気持ちがあるが本意は許している」と述べた。原爆投下は終戦を早め米兵や日本人の命も救ったと正当化する見方は米国で根強い。しかし、国際基督教大の森本あんり教授は「原爆は必要だったとの資材があることは、米側も分かっている」と説明。シーゲル氏にも、キューバ危機でも核兵器はよるとスウィニー氏が謁見(えっけん)したというヨハネ23世(在位58〜63年)は「これは降のローマ法王は核兵器に反対の立場で一貫している」と語った。

森本氏は「スウィニー氏は悪意を以てしていない、任務だった」と言及。善と悪の意識ははっきり線引きできないとする。孤児や被爆者らに対し「すまなかつた。かわいそうなことをして」との思いがあるのは人間として当然と話す。

さらに森本氏は、朝鮮戦争でもキューバ危機でも核兵器は常態で記録も不完全なため、照合は困難としている。スウィニー氏は89年11月、12月に訪れた広島でも近郊の孤児院を訪れ、小切手で寄付を手渡した。

れ、ヨハネ23世に夫婦で謁見(えっけん)、被爆で全壊後、再建された長崎の浦上天主堂への追加支援などを求めた。法王庁のプレス担当者は公式記録による確認は困難としている。ヨハネ23世は62年10月の

キューバ危機の際、米ソの仲介に尽力、翌年には、核兵器は禁止されねばならぬとした公式見解「地上の平和」を出した。ハウさんは、50年代後半〜60年代前半に父と「浦上の孤児」のことをよく話した。

浦上教会や長崎のカトリック関係者は、寄付は通常匿名で記録も不完全なため、照合は困難としている。スウィニー氏は89年11月、12月に訪れた広島でも近郊の孤児院を訪れ、小切手で寄付を手渡した。

## 五輪エンブレム提訴へ

### ベルギーの使用差し止め要求

【ブリュッセル共同】2020年東京五輪の公式エンブレムがベルギーのリエージュ劇場のロゴと似ていると指摘された問題で、ロゴのデザイナーは6日、声明を発表し、国際オリンピック委員会(IOC)にエンブレムの使用差し止めを求め、訴訟を10日にもベルギーの裁判所に起こす考えを示した。野研二郎氏は5日の記者会見で盗用を否定。東京都のエンブレムをデザインした。劇場ロゴのデザイナーオリビエ・ドビ氏の声明によると、6カ月以内に口頭弁論要一知事は同日、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長と会談、エンブレムを今後使用する正式に決めている。

### 盗難

【ニューヨーク共同】ポランド出身で2012年に死去した著名な米バイオリニスト、ロマン・トーテンベルクさんの手元から35年前に盗まれた1734年製の楽器ストライバリアウスのバイオリンが、5年前に盗難された。ストライバリアウスの楽器で現存するのは約550のみで、2011年に別のバイオリニスが競売に掛けられた際、1590万ドル(約20億円)の値が付いた。バイオリンは1980年、